

世田谷区基本構想審議会第2部会（第5回） 議事要旨

【日 時】 平成24年9月4日（火） 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】 世田谷産業プラザ 会議室

【出席者】

■委員 松島茂（部会長）、小林正美（副部会長）、永井多恵子、桑島俊彦、永井ふみ、高橋昭彦、村田義則、上野章子（第3部会）、宮本恭子（第3部会）、田中優子（第3部会）、石崎朔子（外部学識経験者）、以上11名

■区 田中基本構想・政策研究担当部長、望月基本構想・政策研究課長、小田桐政策企画課長、笹部政策経営部副参事、梅田スポーツ振興課長、

【議事概要】

1 主な意見

（1）スポーツについて

- ・スポーツの経験者に地域のスポーツ活動への参加を促すことが大切である。ただし、共働きの両親を持つ子どもは簡単に参加できないことが一つ課題になろう。
- ・スポーツをする場が確保できていない。公園や学校などスポーツをできる場が的確に配置されているのか、十分に議論していく必要がある。
- ・子どもがスポーツに触れる最初のきっかけは親であるが、区内の公園ではキャッチボールが禁止にされている等、親子でスポーツができる場が少ない。
- ・スポーツの場の確保は大切である。コスト負担ができる層を私立の施設に結びつけ、負担ができない子どもや高齢者を公的なサービスで補うことが大切である。特に高齢者がスポーツに取り組むことは、健康増進に繋がり、福祉の負担が減るのではないか。
- ・欧米に比べ、健常者と障害者スポーツの報奨金の差やメディアでの取り扱われる量に差がある。障害者スポーツへのてこ入れが必要だろう。
- ・小学校入学前の子どもを持つ世代には、子育て支援の一貫として、子どもを預けて、スポーツを楽しめるような仕組みがあるとよい。
- ・小学校教員においても体育教師の専任教師を配置すべきではないか。
- ・週1度の体育朝礼を実施するだけでも、非常に体力が向上する。あまり予算が必要な事業ではないため、世田谷区でも実践してほしい。

（2）これまでの議論について

- ・住民のコミュニティを確立していくことと、行政とコミュニティが協働で防災計画や防災カルテを作成していくことが大切である。
- ・災害時に行政の担う役割について、基本構想の中で明示していくべきである。自助・共助・公助の中で、自助が大切であると言われるが、公助を明示しないと自助と共助が有効に機能しないだろう。
- ・区内の様々な施設が更新時期に入っており、うまく更新していくことが大切である。賛否両論あるだろうが、防災時の拠点になる世田谷区役所は老朽化が進んでいるため、建て替えていくべきだろう。もし、建築的に重要な建物であるならば、移転するなどの手段も考えた方がよいのではないか。
- ・基本理念の文章は、たとえば「首都直下地震でも助かるまち」や「復興がどこよりも早

いまち」のようにキャッチコピーで示していくべきである。また、このキャッチコピーの実現のために何が必要なのかを構造的に捉えるべきだろう。特に防災は様々な分野や人々に係る事項であるため、これを軸に考えていくべきだろう。

- ・職住近接のまちづくりを目指すことも様々な分野にかかる事項であるため、言及していくべきだろう。
- ・泥臭くて、普段だったら避けたい役割や仕事こそ、地域と繋がっていくきっかけがある。被災した時には、このようなつながりは互いを助けたいという気持ちに繋がる。地域で孤立している人を地域に係わらせていく仕組みが大切である。
- ・都市部ではコミュニティを簡単に形成することが難しい。エネルギー等、生活に必ず用いるものを共同で用いるような仕組みにより、コミュニティの形成を促していくことも考えるべきではないか。
- ・SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）などの活用によってコミュニティの形成を進めることも言及すべきではないか。
- ・世田谷ブランドには何が必要なのかを起点に議論がはじまったと記憶している。これを踏まえると、①みどりの量だけではなく、屋敷林や国分寺崖線、農地などのみどりの質、②歴史的な資源を大切にするとともに、まちの個性や生い立ちなど、歴史を生かしたまちづくり、③スポーツとは別に子どもの遊び場の確保、④景観や風景づくりなどについて資料2で言及すべきだろう。
- ・世田谷のファサードが美しくない。みどり33の取組を踏まえ、商店街やファサードをみどりで埋めていくような取組が大切ではないか。
- ・「歩いて楽しい世田谷をつくる」は、デザインに加えみどりもある。あらゆる方向性でみどりを増やしていくことが大切である。
- ・シティホールを建設することを基本計画・基本構想に記載してはどうか。
- ・世田谷区は人口が多い割には火葬場がない。区として設置すべきではないか。
- ・世田谷らしさを支えているのは成熟した区民である。これを支えるために、各施設で図書を自由に貸し出せるような図書館の機能を補う仕組みが必要だろう。
- ・将来像の実現方法と実現すべき姿について一緒に記載されているため、全体がぼやけて見える。区民や行政の役割を明確にしつつ、実現手法を記載していくべきだろう。
- ・交通ネットワークやオープンスペースなど、行政がリードしないとならない分野もある。一方で、スポーツや防災訓練などの媒介となる仕組みを用意することで、区民のコミュニティ形成を促すような仕組みが必要だろう。
- ・基本構想の計画期間である今後20年間に日本は様々な課題に直面するだろう。この時に、世田谷が他地域の手本を担うという気概が必要だろう。
- ・区市町村では国や都道府県とは異なり、区民の視点から様々な解決法を組み合わせ、縦割りではなく横割りで対応していくべきだろう。
- ・現状のみどり率や学校・スポーツ施設の配置など、区内の地理を分析するなど、リアリティと志を両立していくことが大切だろう。

2 その他

- ・本日の議論を踏まえて事務局は資料を修正し、最終的なとりまとめは松島部会長と小林副部会長に一任する。